

令和4年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第一中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・言語活動や反復練習の継続により、音声や語彙への理解に成果が見られた。既習済みの文法において、短い簡単な文の記述を苦手としていることがわかった。(第2学年)
- ・言語活動や反復練習の継続により、音声や語彙への理解に成果が見られた。文法の課題を毎時間課すことで文法への理解が深まった。(第3学年)

(2) 課題

- ・既習済み文法の定着に課題が見られた。反復練習や復習を通して、自分の力で文が書けるよう促していく。(第2学年)
- ・文法事項の長文問題、英作文への応用が課題である。基礎力を充実させ反復練習させながら応用できるよう促していく。(第3学年)

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較) * 令和2年度まで第1学年は効果測定に英語が設定されていない。

	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	基礎では目標値を上回ったが、活用の一部のリスニング問題と「英作文」では目標値を下回った。	/
第2学年	「リスニング(内容理解)」、「語彙の知識・理解」は達成率よりも△であるが、記述式の問題は目標値に届いていない。	すべての項目で目標値を上回っている。基礎は△であるが、活用に関して▽なので、基礎を伸すことで目標値を超える。(第1学年時)
第3学年	「リスニング(内容理解)」では目標値を上回ったが、その他の項目では目標値に届いていない。特に英作文問題では大幅に目標値を下回った。	「リスニング(内容理解)」、「語彙の知識・理解」では目標値をやや上回り、英文や長文の読み取りは目標値に近い値である。「外国語表現の能力」分野では目標値を大幅に下回った。(第2学年時)

(2) 分析(観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
簡単な内容を聞き取るのは得意だが、聞きながら英文を読み取ることに不十分であった。	英語の音声を聞いて状況を推測すること、概要を理解すること、資料を参考に英作文することへの苦手さがみられた。	英作文への無回答が目立った。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
英語を聞いて理解することは比較的得意だが、基本的な語順の知識が不十分である。	英語を書くこと、特に英作文に於いては無回答も多く、苦手意識が高いと思われる。	短い英作文も含め、文を書くことを苦手としていることがわかった。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
英語を聞いて理解することは比較的得意だが、語彙と語形・語法についての基本的な知識が不十分である。	読み取り問題や長文問題に於いては誤答が多く、苦手意識が高いと思われる。	英作文問題では無回答が多かった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
それまで授業で英語を聞く活動が十分に行えていなかった。今後の活動で補われていくと考える。	それまで授業で英語を聞く活動が十分に行えていなかった。今後の活動で補われていくと考える。	短い英作文を書く活動を継続して行い、それに対するフィードバックを行っていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習文法を言語活動に取り入れ、聞いたり話したりする活動を通して定着を図る。	言語活動やペアワークを通して、聞いた内容を簡単な文で表現できる活動となるよう工夫する。	短い英作文を書く活動を多く取り入れる。また、言語活動を通して既習事項の定着を図る。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単語テストを実施し語彙不足を補う。毎回の文法課題と文法テストを継続し定着を図る。	言語活動やペアワークを継続し、ESAT-Jの対策も兼ねて表現力を伸ばすためにICTを活用する。長文問題と英作文への苦手意識をなくすよう工夫しながら指導する。	基礎的な学習事項の定着を図り、主体的に英語を話したり表現したりできるよう促していく。